



## vol.14 松本有香さん

---

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第14回目に登場いただくのは、[株式会社インターネットイニシアティブ \(IIT\)](#) プロフェッショナルサービス第二本部 ソリューションビジネス部1課に在籍している松本有香（まつもと・ゆか）さんです。聞き手は JOI 情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

---



株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ） 松本有香さん

## 法人向けにネットワーク・ソリューションを提供

山口 株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）について、どんな会社か教えてください。

松本さん 国内初の商用インターネットサービスプロバイダーとして、30年ほど前に設立された会社です。“国内初”であることはもちろん、インターネットの関連技術でイニシアティブを取り続け、日本の情報通信社会の発展に貢献していく想いをこめて、社名にイニシアティブ（先駆者）という言葉をつけました。その強みを活かして、現在では、法人顧客に対して、インターネット接続、クラウド、セキュリティ、モバイル等の各種ネットワーク・ITサービスから、システム構築や運用管理などのシステムインテグレーションまで、総合的なネットワーク・ソリューションを提供しています。

山口 松本さんの部署はプロフェッショナルサービス第二本部とのことですが、どんな仕事をしているのですか？

**松本さん** 企業のID管理やデータ連携、IoT施策などで、IIJが注力するサービスを主体に、お客様に価値を届けるソリューションの企画からプリセールス、提案、ソリューション導入を実施する部署で、主にソリューションの企画からプリセールス、提案を行っています。

具体的には、お客様のIOTのプロジェクトに対して、Microsoft Azure PaaSというパブリッククラウドサービスを使い、少人数のラボ型から成るPoC（Proof of concept：概念実証）の実行体制を組んで、ソリューションとして提供するということをしています。

**山口** PoCということは、販売する製品の試験段階だと思うんですが、そのシステム構築みたいな感じでしょうか。どんなときに仕事が楽しいと思いますか？

**松本さん** 新しいことにチャレンジできるのはもちろん、いろんな方のお話を聞いて、自分の考えや価値観をアップデートできることです。

また、社内で「セレクトジョブ」という制度があって、副業のように兼務ができるんですが、公募に手を挙げてチャレンジしたときは、分野の異なる営業部署で働くことができ、すごく楽しかったです。

**休日**はジムで体を動かしたり、友人と旅行に行ったり

**山口** そういえば、少し話が逸れますが、IIJさんではあるキャラクターが有名だそうです。

**松本さん** はい。バリーくんです。バリーくんは弊社の運用監視システムのキャラクターです。ぬいぐるみは社員のデスクの上に置いてあったり、LINEスタンプもあったり。



手前がぬいぐるみ

山口 楽しい感じの会社ですね。仕事以外で楽しんでいることはありますか？

松本さん 基本的には家でダラダラすることが好きなのですが、休日にはジムに行って体を動かしたり、旅行も好きなので、この間はウィーンやプラハに行ってきました。



週2ほどジムでトレーニング



赤い屋根が見たくて、友人とプラハへ



ウィーンでは美術館めぐり

## 建築学部を目指していた受験生時代

山口 松本さんは千葉県出身とのことで、これまでのキャリアについて教えてください。

松本さん 高校までは千葉県にある学校で学びました。その後、明治大学の総合数理学部に入學し、卒業後は大学院に進學しました。トータル6年間、千葉の実家から通っていました。大学院では、レーザセンサなどを用いた自律移動ロボットの研究を行う研究室に在籍し、「メガネ型のアイトラッカーを活用したランニング姿勢の改善」について研究していました。

人が走っているときの視線を赤外線によってトラッキングして、姿勢が良い悪いなどを通知するシステムを作っていました。太陽が出るとトラッキングできなくなってしまうので、難しい場面もありました。通知の方法は音にしました。ランナーの方など、イヤホンで音楽を聞かれる方が多いので、よくない姿勢のときは雑な音を流すなど工夫しました。

山口 学会でも発表されたそうですね。

松本さん 年に2回、国内の学会に参加していました。学会終わりに研究室のみんなとフグのお刺身を食べに行ったのが思い出です。



山口 大学院時代はアルバイトもされていたそうですね。

松本さん テーマパークのホテルの中の宴会場で配膳のアルバイトをしていました。卒業式の謝恩会や結婚式、企業さんのパーティーなどいろいろな場面で配膳をしました。

山口 大学は最初から理系を目指されていたのですか？

松本さん もともと建築学部に行きたかったのですが、情報系の総合数理学部も新設の学部だったので、実は軽い気持ちで受験したんです。合格して、新しくて楽しそうだし、行ってみようと思ったのがきっかけです。

山口 新設される学部を知ったきっかけはありましたか？

松本さん 父が教えてくれました。自分では建築でしか探していなかったのですが、情報系って何をするんだろうと思っていましたね。

## プログラミングは大学に入ってからスタート

山口 ということは、大学の授業で初めてプログラミングを？

松本さん はい。最初は本当に「なんで、これで動くんだろう？」と、理解が追いついていませんでした。こういう風に行けば動くなってしまうのはわかる、そんなレベルでやっていました。

実は今の部署でもそこまでコードを書いたりはしていませんが、なんとか大学を卒業する頃には、「自分はSEになるんだろうな」と漠然と思っていました。

山口 大学で初めてプログラミングに触れた割には、迷いなくこのお仕事をなさっていますが、小中高からパソコンなどに興味があったのでしょうか？

**松本さん** 自分のパソコンは持っていたのですが、動画を観たりとか音楽を聴いたりとか、それぐらいしかしてなかったのです。コンソールなどは、ウィンドウを開いてこんなことができたんだって思ったくらいです。

小学校の情報の授業でも「一太郎スマイル」で手紙を書くくらいしかしていませんでした。

**山口** 小中高時代はどんなことに興味がありましたか？

**松本さん** ガールスカウトとかハイキングに行ったり、アウトドアなことが好きな子どもだったと思います。



ガールスカウト時代。



小学校 1、2 年生頃の松本さん。

## 日本社会に貢献できる IT システムの開発に携わりたい

山口 松本さんが目指していることや、今後の目標など教えてくださいませんか？

松本さん 日本の社会に対して貢献ができる IT システムの開発に携わりたいなと思っています。日本は超少子高齢化社会ですが、その際発生する課題を、AI や新しい技術を用いて、ダイナミックに変革できたらいいなと常々感じています。

山口 最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

松本さん プログラミングはあくまで手段だと考えています。その先に何を作りたいのか、何を成し得たいのかが重要になってくるかなと思います。私自身、ずっとプログラミングが好きだったわけではないのですが、おもしろい仕事に携わることができているのは、プログラミングのおかげだと思います。

また、プログラミングに限らずですが、大好きなことがあり、それができる能力や環境があることはとても恵まれていることだと思います。ご家族や周囲の方々に感謝の心を忘れずに、ぜひ極めていってください！

山口 本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】

今のお仕事内容とは想像がつかないほど、アクティブなことが楽しそうな松本さん。子どもものころからずっと活発な様子が素敵です。お仕事はなかなか思い通りに進まないこともあると思いますが、その時々状況を楽しみながら対応している様子が伝わってきます。味方してくださる方々が社内にも多いことも、失敗を恐れずに進める理由なんですね。

(山口)

次回もお楽しみに。